

平成 25 年度大阪府麻しん対策審議会議事概要

日時：平成 25 年 8 月 30 日（金）14 時 00 分から 15 時 00 分

場所：大阪赤十字会館 402 会議室

【議事次第】

議題

- (1) 麻しんの発生状況について
- (2) 麻しんワクチンの接種率について
- (3) 平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 年間の麻しん接種率向上に向けた取り組み
- (4) 麻しんワクチンの接種率について
- (5) その他

【出席委員】（50 音順 ◎会長）

- ◎加瀬委員（府立公衆衛生研究所 ウイルス課課長）
甲田委員（大阪市保健所長）
柴田委員（府保健所長会代表 藤井寺保健所長）
高野委員（高槻市保健所所長）
原山委員（大阪府町村長会代表 島本町民生部福祉保健課長）
深見委員（大阪市教育委員会 学校保健担当課長）
松実委員（大阪府医薬品卸協同組合 事務局長）
宮川委員（一般社団法人 大阪府医師会 理事）
山崎委員（堺市保健所所長）

【欠席委員】（50 音順）

- 百合中委員（大阪府 P T A 協議会 副会長）
谷尾委員（大阪府市長会代表 箕面市健康福祉部健康増進課長）
西野委員（堺市教育委員会保健給食課長）
松本委員（東大阪市保健所所長）
森脇委員（豊中市保健所所長）

【会議の成立】

本会議は、「大阪府麻しん対策審議会規則」第 5 条第 2 項の、会議開催に必要な過半数を超えており、有効に成立しています。（委員数 14 名 出席委員 9 名 欠席委員 5 名）

【配付資料】

- 資料 1 麻しんの発生状況
資料 2 - 1 平成 22～24 年度 期別接種率比較
2 - 2 平成 24 年度市町村別麻しん予防接種状況調査結果
【別添 1】平成 24 年度都道府県別接種率順位表
【別添 2】平成 23・24 年度接種率比較

- 資料 3-1 府の取り組み及び予防接種実施状況について（平成 20 年～24 年度）
- 3-2 市町村の予防接種率向上に向けた取り組み等について（第 2 期～第 4 期）
- 3-3 学校における麻しん風しん予防接種の接種率向上のための取り組みについて（平成 20 年～24 年度）（府教育委員会）
- 資料 4 今後の麻しん対策への取り組みについて
- 参考資料 1 「麻しんに関する特定感染症予防指針」
- 参考資料 2 大阪府麻しん対策審議会 委員名簿
- 参考資料 3 大阪府麻しん対策審議会規則

《議事概要》

1. 開会
2. あいさつ

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 25 年度大阪府麻しん対策審議会を開催する。 ・ 開会にあたり、挨拶
府・谷掛課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日は御多忙のところ「平成 25 年度大阪府麻しん対策審議会」に出席いただき、感謝。 ・ 昨年度の審議会では、平成 24 年度の予防接種率がまとまっていなかったこと、また、第 3 期、第 4 期の予防接種が昨年度で終了したことから、1 年間の予防接種率が確定される時期に開催したいとしていたため、今年度の会議はこの時期に開催することとなった。 ・ 平成 24 年度の大阪府の接種率では、第 1 期が 98.1%、第 2 期が 93%、第 3 期が 89.6%、第 4 期が 78.2%という結果となった。 ・ また、大阪府においては、風しんの大流行が発生し、風しん患者の中に麻しん患者が含まれていることも考えられ、各医療機関が積極的に麻しん疑いとして発生届を提出していただいた影響か、今年は 8 月 14 日現在で、15 名と麻しん患者の発生が多くなっている状況。 ・ 麻しん排除のためには、予防接種率が 95%以上であることが求められていることから、第 2 期の接種率の向上が必要。 ・ 一方、国において風しんの特定感染症予防指針の策定も検討されている状況 ・ 本日は、昨年度までの 5 年間の麻しん対策のまとめをし、今後の麻しん対策への取り組みについても委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 議題（1） 麻しんの発生状況（資料 1）

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府内の麻しんの発生状況について ・ 施設別発生状況 平成 24 年は大阪府は無。全国で 2 例。これは、宮崎県で集団発生事例があり小学校と中学校の臨時休校措置が取られた事例。 ・ 平成 25 年の大阪府の麻しん届出数は 15 例。年齢内訳は 10 代未満で 3 例、10 代で 1 例、20 代で 3 例、30 代以上で 8 例。 ・ 麻しん届数・疑い事例数については平成 25 年が 179 例、検査診断実施
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>症例数が 169 例となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病型は、検査診断例が 2 例、臨床診断例が 2 例 ・ 平成 25 年は疑い例を含めた全届出数のうち 94% で検査診断を実施。 ・ 全国的には大阪府は 2013 年 8 月 14 日現在 15 件で、全国第 5 位となっている。
(質疑応答) 加瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 25 年の麻しん届出数・疑い事例数 179 例のうち、検査診断実施症例数 169 例に上がっていない残りの 10 例についてはどのような内訳になっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 例のうち、PCR の協力が得られず、あがっている事例が府内（政令市、中核市除く）2 例ある。他市のものもあり全部は把握できていない。
甲田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪市の事例のうち、臨床診断事例 1 件については、検査の協力が得られなかった事例であった。
加瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査する前に取り下げられたという事例はあるのか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生届の提出前に、保留して相談して IgM の結果をみて取り下げするケースもこの 10 例に含まれる（病院の方で明らかに麻しんと異なると判断して取り下げられている例など）。
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 件については、全例 PCR 実施と解釈してよいのか？ IgM も含まれているのか？ IgM 数値も分かっているのか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ IgM 陽性のみも含まれている。IgM 数値は報告のときにあげられているものもある。府では PCR 陰性 IgM 陽性でも医師が麻しんと診断すれば、届出上、検査診断例としてカウントしている。

4. 議題（2） 麻しんワクチンの接種率について（資料 2）

事務局	<p>(資料 2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 22 年度から 24 年度における 9 月末・12 月末・3 月末の接種率の比較をしている。もっとも太い直線が 24 年度の接種率。毎年度、接種率は向上。 ・ 第 2 期の 24 年度末時点は全国平均にあと少しだった。 ・ 第 3 期の 24 年度末時点は、今回、初めて全国平均を上回った（これは大阪市、東大阪市、医師会での集団的接種での取り組みによる接種率向上に大きく貢献していると考えられる）。 ・ 第 4 期の 24 年度末時点は 23 年度の接種率からは大幅に向上しているものの、全国平均には届いていない。 <p>(資料 2-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 期は目標の 95% 達成。第 2 期はあと 2 ポイントだった。 ・ 第 4 期については、23 年度高校 2 年生の時点で学校行事として海外に修学旅行等で行く者について、第 4 期として定期接種を行う特別措置があったため、別に集計されている。 <p>(資料 2-2 別添 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 期から第 4 期の都道府県別接種率（全国集計結果） ・ 大阪府順位は、第 1 期 19 位、第 2 期 36 位、第 3 期 27 位、第 4
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>期 45 位 (H23 年度 : 第 1 期 25 位、第 2 期 42 位、第 3 期 33 位、第 4 期 45 位) で、23 年度と比較すると第 1-3 期が上昇している。 (資料 2-2 別添 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各期とも、府全体の接種率は上がっている。 第 4 期は多くの市町村で接種率が向上している。 グレーのセルは上位 5 位までの市町村。第 3 期の上位 5 位 (藤井寺市、富田林市、太子町、千早赤阪村、大阪狭山市) は目標接種率の 95% を超える数字となっている。
(質疑応答)	
加瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> 第 3 期での大阪市等での集団的個別接種の取り組みについて何か補足があればご意見をうかがいたい。
甲田委員	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度については第 3 期については大阪府医師会を中心とした公立中学校での集団的個別接種の取り組みが、特に接種率に大きく効果があった。
森参事	<ul style="list-style-type: none"> 東大阪市では第 3 期については接種率が 22 年度 81.5%、23 年度 88.6%、24 年度 91.6% となったが、取り組みとしては 23 年度に、4 月の案内の際に接種済証を送付 (学校へ提出) することで接種への意識を高め、12 月時点での未受診者への個別案内発送を行った。24 年度は、2 月に各中学校へ出向き、校長会等で集団的個別接種の実施について理解を得るよう働きかけを行った。
加瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> 集団的個別接種は、時代の流れとは逆行しているが、接種率向上のために方法論を変えるという取り組みも必要という事例になったのではないか。今回の経験を、また他に引き継いでいければと考えている。
宮川委員	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、接種率の向上のためには、集団的個別接種など学校現場の協力が不可欠。 麻しん対策ではないが、新型インフルエンザ特措法についても、具体的にどうなるかは分からないが、今後、保健所等で集団接種を行わないといけない部分が出てくると思われる。
加瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> これについて、事務局でコメントがなければ、また別の審議会でコメントしていただければと思う。 当初、大阪府の接種率は低い状態だったが、この 5 年間でかなり成果が出たと思う。

5. 議題 (3) 平成 21 年度から平成 24 年度までの 5 年間の麻しん接種率向上に向けた取り組み (資料 3)

事務局	<p>(資料 3-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1. 大阪府内の予防接種実施状況」は平成 20 年度から 24 年度までを一覧にしたもの。第 3 期、4 期については 5 年間で 10 ポイントほど上昇 (特に 5 年間で見ても第 3 期の接種率の伸びは著しい)。 「2. 大阪府の取り組み」では平成 22 年度からの主な取り組みをまとめたもの。
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「3. 副反応発生状況」では平成18年度からの副反応の状況についてまとめたもの。 (資料3-2) ・ 前回の審議会で説明した市町村における取り組み内容(24年8月時点)について、24年度終了後に市町村に対してあらためて調査を実施した調査結果。 ・ 個別通知による接種勧奨についてはすべての市町村で実施しており、2回通知以上が大半。24年度の「その他」ではいずれも4回通知と回答したもの。 ・ 接種率上位5自治体は、個別通知をおおむね2回以上実施している。 ・ 集団的個別接種を実施している市町村は、比較的接種率は高い。 ・ 第3期の集団的個別接種はほとんどが市立中学校において実施している。 ・ 第4期の集団的個別接種をしている市町村は市保健センターもしくは公民館で実施しているが、実施自治体が少ない。 ・ 第2期については、平成25年度においては約半数以上の市町村が就学前健診での勧奨を予定しており、また、大半の市町村が未接種者に対する個別通知を行っている。 ・ その他、第2期における市町村取組事例を紹介。
<p>教育委員会保健体育課 本田指導主事</p>	<p>(資料3-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪府教育委員会での取組み ・ 予防接種の促進、接種状況の調査に関する通知文を送付。平成24年度は、8回発出。 ・ 学校関係者への説明会では、学校長の会議、学校長協会、学校保健関係者の会議等で随時説明を行った。 ・ その他、府立学校保健関係者、市町村教育委員会学校保健担当者等に対する研修などを行った。 ・ ポスター、リーフレット、保健だよりによる啓発や学校ホームページでの掲載などを行った。 ・ 第3期、第4期の年3回の接種状況調査と未接種者に対する接種勧奨を行った。 ・ 保健指導では、入学説明会、全体集会、保護者が集まる場での啓発を行った。 ・ 府立学校数校では、学校を会場とした学校医による接種を実施した。
<p>(質疑応答) 深見委員 原山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市では、第3期について最初はなかなか協力を得るのが困難だったが、府からの接種率調査依頼の回数も増え、接種率向上とともに、学校での理解も高まり、集団的個別接種など24年度はより積極的に取り組む雰囲気であった。 ・ 市の予防接種担当課としては、個別通知などの働きかけは行っているが、やはり学校の協力は非常に大きいと考えている(島本町での2期の接種率向上についても、就学時健診での問診表の中での予防接種の

	確認など)。他の予防接種でも同じような形で連携していければと思っている。
--	--------------------------------------

6. (4) 今後の麻しん対策への取り組みについて (資料4)

事務局	<p>(資料4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の麻しん対策への取り組みについて、前回3月での審議会の項目について再掲。 第1期については定期接種率95%の維持、第2期については95%達成を目標。引き続き、大阪府は、個別の積極的勧奨や未接種者の保護者に対するきめ細かく、繰り返し積極的勧奨の取り組みについて、市町村に対して協力を依頼するとともに、市町村・教育委員会等関係機関と連携して、就学時健診の時期などの機会を利用して、第2期接種対象者の保護者への周知、啓発に努める。 麻しんの広報啓発については、引き続き、広く府民に対して、広報誌や各種イベント等を通じて普及啓発を行う。 また、麻しん発生時の24時間以内の届出、全例検査診断の実施。医療機関からの相談がある際には保健所等が適切な対応、対策が取れるよう協力する。
(質疑応答)	
高野委員	<ul style="list-style-type: none"> 今年の風しん流行で、風しんの診断を通して、麻しんの診断や発生届についても医師への啓発が行えたと思う。
柴田委員	<ul style="list-style-type: none"> 麻しんの発生届では、検体の確保及び患者(接触者)の状況把握が重要であるが、検体の確保や患者への説明も医療機関の先生からご協力いただいている。
甲田委員	<ul style="list-style-type: none"> 大阪市では今年度より予防接種台帳システムが導入され、第2期についても、従来よりきめ細かい個別勧奨が可能になり、今年度末には未接種者に対して、地区担当者が個別に接種勧奨することも聞いている。発生届が届いた際の検体の確保では、医師会の先生の協力もあり、検体の確保もスムーズにできている。
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> 堺市でも、これまで麻しんのPCR検査の依頼は小児科からが多かったが、今回風しんの流行で、内科の先生からのPCR検査の実施が行われるようになった。

7. その他

加瀬会長	<ul style="list-style-type: none"> 議題にかかわらずご意見等あればうかがいたい。
宮川委員	<ul style="list-style-type: none"> これからは第2期をどうするかが課題。 例えば市町村の取り組みにおいて、MRワクチン接種率検討委員会の開催とあるが、そのような取り組みを他の保健所でもぜひ検討していただきたい。 今後の第2期接種率を下げないためにも、第3、4期の接種率がなぜ低いのかという原因の把握を行わないといけない。また、どのような

	<p>広報が行われ、どの広報が効果的であったか、検証する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今回は第3期での大きな取り組みの力で他の第1期、2期、4期も接種率向上につながったと考えられる。
松実委員	<ul style="list-style-type: none"> • MRワクチンの供給については、一時期、不足が危ぶまれたが、メーカー3社の生産状況については、定期接種に必要な供給量は十分見込まれることから、今後の第1期、2期接種率の目標達成に十分協力できると思う。
宮川委員	<ul style="list-style-type: none"> • 今回の風しんワクチンの補助については、9月30日までの時限的措置で終了されるということで、大阪府医師会から大阪府知事への要望を出しているが、これは大阪府だけの問題だけではないと思うので、国が費用負担するよう、是非行政からも要望をあげて欲しい。

8. 閉会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 本日、皆様からいただきました意見を、今後の本府の麻しん対策に活かしていけるよう努める所存。
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------